

自然エネルギー市民交流会

「環境と経済」の将来像を学びました

11月15日(土) 著書『環境を守るほど経済は発展する』(朝日新聞社)が注目されている倉阪秀史さん(千葉大学助教授)を招いて、「自然エネルギー市民交流会」を大町特産館「いーずら」で開催しました。大町の内外から30人余あつまり、交流しました。

交流会では、講演に先立って、大北地域で活動されている北アルプス・バイオマスを考える会の工藤事務局長の活動紹介と、本会の2つのエコプロジェクトが紹介されました。

環境への配慮が利益となる時代

講演で、倉阪さんは、環境の限界が明らかになるなかで、大量消費を前提にしたモノを売るやり方を見直し、生産者がサービスを売る時代に切り替わっていることを、国内外の企業の動向から説明しました。つまり、廃棄物処理の費用も考えると、商品を大切に使うことで、利益が上がることに気づきだしたということです。

そして、そのような企業などの努力が評価され、促される政策を市民の世論で推進していく必要があると指摘しました。

大町を「永続地帯」へ

また、枯渇性資源(石油や石炭など)に限りがある中で、地域に見合った更新性資源(太陽光、水、風力など)を開拓し、エネルギーや食料などを自給できる「永続地帯」を少しずつ増やして、外国に依存しきった日本の体質を改善する必要があると強調されました。

日本は、降水量が多い上に、地形が急峻で、水力は有望な資源であるとした上で、大町の取り組みは全国をリードするものであり、



不合理的な規制や手続きなどは実践を通じて突破してほしいと期待を寄せました。そして、「枯渇型資源に依存しきった大都会の弊害が明らかになり、永続地帯に人口の逆流が始まるだろう」と、自然エネルギーの取り組みが地域づくりに与える影響を「予言」しました。

自律をめざす市民活動

講演の後、ごみ問題や規制緩和に関する質疑応答の後、参加者で交流しました。

会場には、美麻村で村名の由来でもある麻の生産を再生して循環型の地域づくりをすすめるよう提唱している吉田さん(遊学舎)、穂高でパーマメントアグリカルチャーという自給型の生活スタイルの実践をすすめている臼井さん(シャロム)、EM菌の活用による地域づくりをすすめている赤羽さん(安曇野EM環境浄化の会)、上伊那・飯島町と飯田市で自然エネルギーの活動をすすめている方がそれぞれ来られ、討論に加わりました。

傘木代表は、会場からの発言を受ける形で、「合併を選択するも、しないも、大切なのは市民が自律的に地域づくりをすすめていくという決意と、倉阪先生のおっしゃる『永続地帯』をめざすような方向性を地域社会が持つことではないか」と語りました。

倉阪先生のレジメを含む、自然エネルギー市民交流会の当日資料を500円で配布しています。ご希望の方は事務所までご連絡を。

この秋、いろいろありました。

前号「活動だより」(10/27付)から約1ヶ月間、1面に紹介したシンポをはじめ、めまぐるしい日々が続きました。

研修生受入れ

10月27日(月)から5日間、公共職業安定所の職業訓練校で「NPO起業科」を専攻している中山久さんと丸谷典子さんの研修を受け入れました。菜種まきや水路調査、理事会、くるくるエコプロジェクト実行委員会、資料整理など、多彩な業務を体験していただきました。12月1日からは、中山さんが引き続き、3ヶ月間の研修で来られます。

菜種まき

10月28日(火)、田中顕興さん(稲尾)のご協力で、借馬地区の国道沿いにキザキノナタネを2面分、直播きと筋蒔きで試験的に蒔いてみました(写真)。時季が遅く、来春の開花が心配されますが、11月上旬は温暖な天気が続く、期待しています。実行委員の他、田中さんとレストラン「花の木」のマスター、前述の2名の研修生などが参加しました。

大北社会福祉協議会

11月13日(木)、大北社協の交流会が開催され、本会の活動を事例報告する機会を得ました。傘木代表が出張のため、降旗一江・事務局長とスタッフの松實ひかるさんが、パワーポイントを使って、本会の活動を約300人近い参加者を前に紹介し、今後の福祉分野との連携をよびかけました。

長野工専・地域共同センター

11月14日(金)、長野高専の地域共同テクノセンター長の岸教授をはじめとする「エコロジー住環境研究会」のみなさんが来所され、水力実験を視察し、交流しました。研究会の事務局長の横澤由明さん(東京在)は大町市の出身とのこと。今後の連携を確認しました。



全国農業新聞の1面トップで

本会の「くるくるエコプロジェクト」が、11月21日付の「全国農業新聞」(農業委員向けの新聞)の1面トップで紹介されました。同紙では、農業の新しい分野となる可能性を期待して、私たちの実験を評価しています。

2つの展示会へ出展

11月22日(日)、大町エネルギー博物館で「北アルプス・バイオマスを考える会」が主催する展示会に、本会の2つのエコプロジェクトをパネル展示するとともに、同会のご配慮により、小水力発電実験のビデオ連続上映やバイオ軽油での発電機運行をしていただきました。「新聞で見たよ」との声もありました。

11月26日~28日、千葉の幕張メッセで「エネルギーソリューションワールド 2003」に、(株)ひまわりニューエネルギーのご好意により、小西水力の取り組みが展示されました。小水力では唯一の展示となり、多数の関係者が説明を聞き入っていました。

NPOマネジメント講座

11月29日(土)、環境事業団地球環境基金が主催する「中部・北陸NPOマネジメント講座」が名古屋市で開催され、傘木代表が「魅力ある計画づくり」「理事会と事務局の運営」の2コマで講師を務めました。各地から30名の受講生が参加しました。

NPO地域づくり工房・活動だより 13

発行責任者：傘木宏夫(代表理事)
〒398-0002 長野県大町市仁科町 3302
Tel.&Fax.0261-22-7601 E-Mail.npo@omachi.org
ホームページ <http://npo.omachi.org/>